

図23 年齢階級別肥満とるいそうの割合(男)

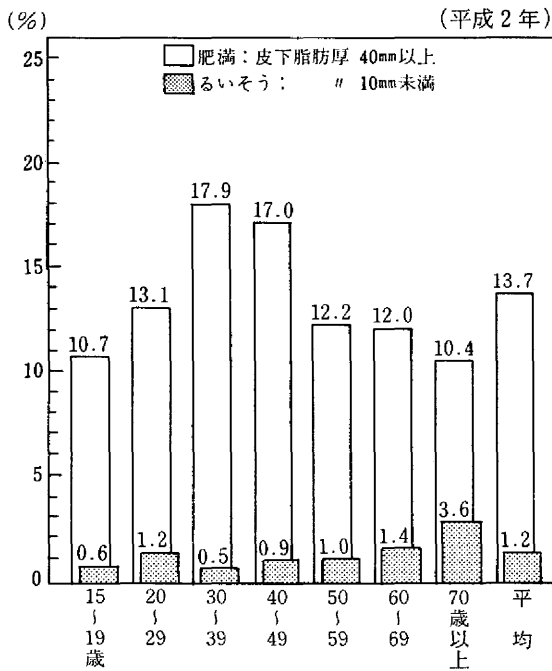


図24 年齢階級別肥満とるいそうの割合(女)

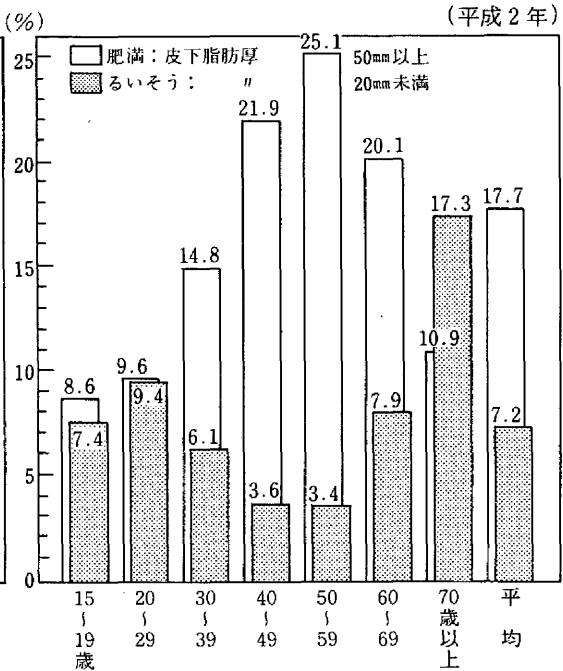
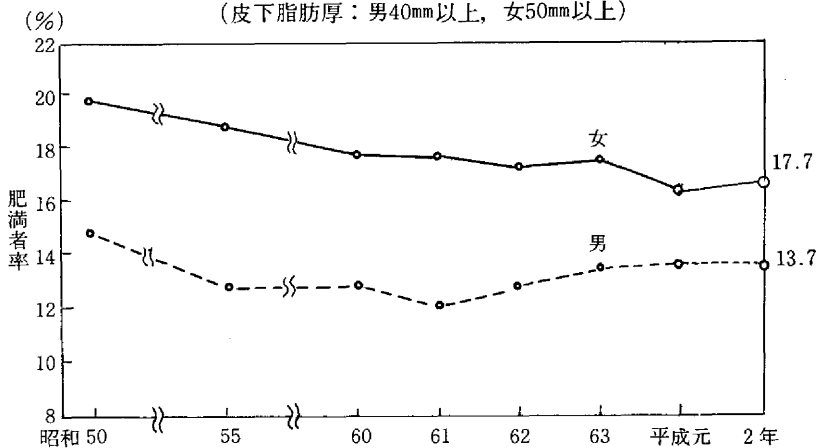


図25 肥満者の年次推移

(皮下脂肪厚：男40mm以上，女50mm以上)

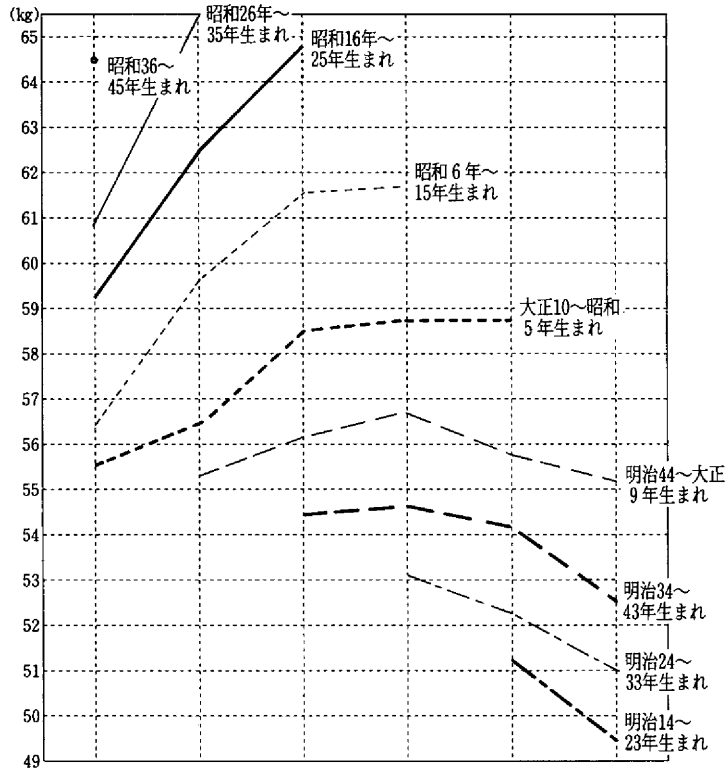


4. 身体 の 状 況

— 肥満者は男性で7人に1人，女性で5人に1人 —

皮下脂肪厚(上腕背部+肩甲骨下部)からみた肥満者(男40mm以上，女50mm以上)とるいそう者(男10mm未満，女20mm未満)の割合を年齢階級別にみると図23，24のとおり，15～19歳，20歳代の若い女性の肥満者は8～10%と少ないが，30歳代以後はかなり肥満者が増え，50歳代においては25.1%で4人に1人が肥満者と，かなり年代間に差があることがわかる。その点男性においては，女性ほど年代

図26 出生世代別体重変動（男，年齢階級別）



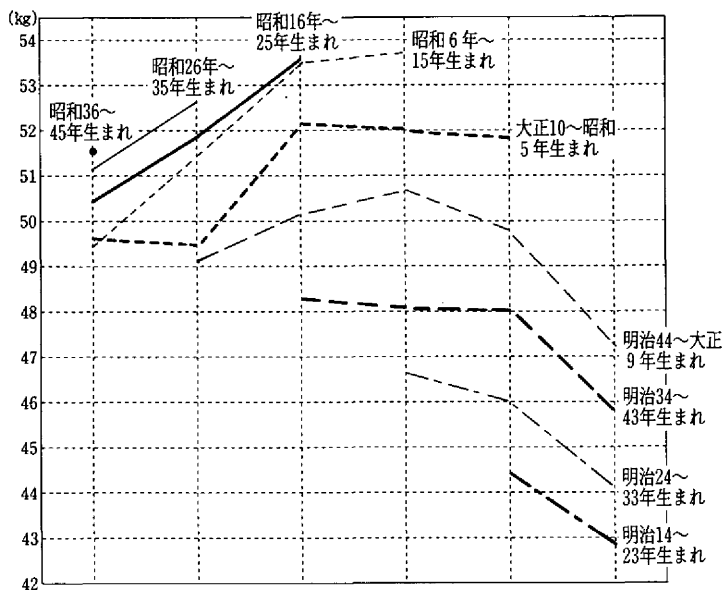
	昭和25年調査	35年調査	45年調査	55年調査	平成2年調査
20歳代	55.6	56.4	59.1	60.8	64.6
30	55.3	56.5	59.6	62.4	65.3
40	54.5	56.1	58.6	61.5	64.7
50	53.1	54.7	56.7	58.7	61.7
60	51.2	52.3	54.2	55.8	58.7
70	49.0	49.4	51.0	52.6	55.2

間で肥満者の割合に差がなく、るいそう者も同様に年代間にあまり差がみられない。

肥満者の割合の年次推移をみると図25のとおり、男女とも明確な増減の傾向は認められず、ほぼ横ばいである。

次に、各出生年代別の体重変動を10年ごとに追跡したものを図26、27に示す。男性は20歳代から30歳代、40歳代にかけて体重は増加し、特に後続世代ほど体重の増加が著しい傾向にある。また、50歳代から60歳代、70歳代にかけて体重は減少している。一方、女性は大正10～昭和5年生まれにおいて、20歳代から30歳代にかけて体重の減少がみられるが、そのほかは男性と同様、20歳代から30歳代、40歳代にかけて体重は増加している。また、50歳代以降から60歳代、70歳代にかけては体重は減少している。

図27 出生世代別体重変動（女，年齢階級別）



	昭和25年調査	35年調査	45年調査	55年調査	平成2年調査
20歳代	49.7	49.4	50.4	51.1	51.6
30	49.2	49.4	51.5	51.9	52.7
40	48.3	50.2	52.2	53.5	53.6
50	46.7	48.1	50.8	52.0	53.7
60	44.5	46.0	48.0	49.8	51.9
70	41.8	42.9	44.1	45.8	47.3

5. 外食の状況

外食について年次推移をみたのが図28であるが、昭和40年には11.3%であったものが増減を繰り返しながらも徐々に増加し、平成2年には18.9%までになっており、男女別にみても同様に増加の傾向がみられる。

また、年齢階級別に推移をみると図29、30のとおり、男女ともに各年代において増加の傾向を示し、特に20～40歳代の伸びが大きい。